

# ミツミ事業

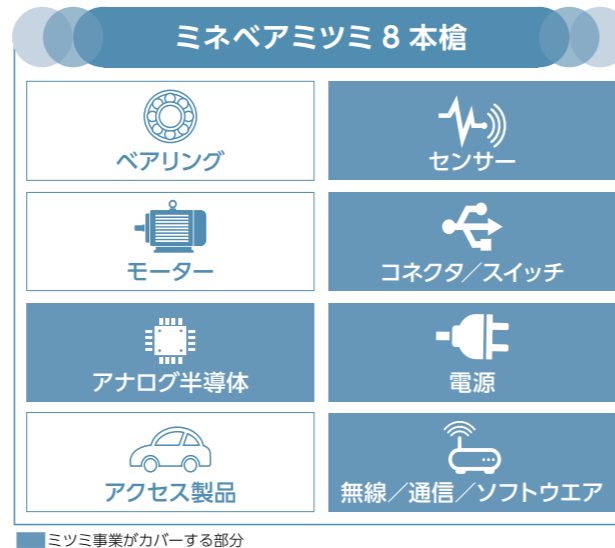
8本槍製品の相合により今後の成長分野に向けた新製品を開発し、グループ全体の事業機会を創出

取締役副社長執行役員  
ミツミ事業本部長  
岩屋 良造



## コア・コンピタンス

センサー、光学、MEMS（微小電気機械システム）、高周波技術、電気回路技術、半導体設計技術に代表される超微細加工が求められる分野における技術開発力が競争力の原点です。さらに、経営統合によりミネベアミツミのDNAである超精密加工や垂直統合等のコア技術が融合したことで、開発から量産まで顧客の細かなニーズに一貫通貫で対応する体制を整備しています。8本槍製品の半数以上がミツミ事業に属し、グループ全体の「相合」を創出する原動力となっています。



### 機会

- 車載、コミュニケーション、医療等の主要分野におけるさらなる低消費電力・小型・高精度化へのニーズ拡大。
- 非接触型製品の需要増加を受け無線通信技術、センサIC等の活用機会拡大。
- AI/ビッグデータを背景とする自動車、住宅機器、インフラ等のコネクティブティ向上。

### リスク

- 既存技術を代替する新技術/アプリケーションの台頭。
- 中国における低コストな競合メーカーの台頭。
- 米中貿易摩擦に伴うハイテク産業に対する規制強化。
- 半導体の業界再編による大型 M&A と寡占化。

### 機会とリスクへの対応

- 技術力をいかした新製品の開発および新規顧客の開拓に注力。
- 事業の成長フェーズに合わせた設備投資計画の見極め。
- アナログ半導体の能力拡張および社内リソースとのシナジー創出による競争力の強化。

## 2022年3月期の概要

光デバイスの大幅な成長に加え、アナログ半導体の好調な受注を受けて増収となりました。この結果、売上高は4,291億円、営業利益は418億円、営業利益率は9.8%となりました。

## 2023年3月期の見通し

引き続き光デバイスと半導体を中心とした成長が見込まれることから、さらなる増収増益を見込んでいます。

## 中期事業計画

### 半導体、アクチュエータが成長を牽引

#### 主なポイント

- 1 光デバイス  
当社注力製品の搭載率上昇と次世代技術への移行
- 2 アナログ半導体  
滋賀工場立ち上げと MEMS 拡販  
シナジーとオーガニックの両輪で安定成長
- 3 機構部品  
相合力を活用し  
新規 OEM ビジネス開拓へ
- 4 コネクタ/スイッチ/電源  
社内シナジー創出で NEXT 半導体へ

## 次の10年を見据えた基本戦略

事業の絶対的な持続性の観点から、8本槍製品を構成する5分野を将来のコア事業として力強く成長させることが、ミツミ事業として最も重要な課題であると認識しています。そのために、サブコアビジネスが生み出すキャッシュを成長原資として8本槍製品を強化することが、ミツミ事業の基本戦略となります。その執行は、①自律的な成長、②これらの事業を包含する新製品の開発、③これらの事業を有効に活用できるとされる会社のM&Aをおこなうことで達成されます。

## 『「相合力」でオンリーワンを目指す』戦略

当社が保有する10のコア技術や8本槍製品は、それぞれが密接に関連することで互いの製品の品質、性能、収益性が強化され、業績の拡大につながっています。アナログ半導体事業は電池保護IC、MEMS、車載用IC等の多様で高品質な製品群を擁しており、その半導体を当社のモーターに組み込むことで製品特性が一層強化されます。

アナログ半導体事業においては、2021年はオムロン株式会社より8インチ工場（現滋賀工場）およびMEMS事業を取得したほか、群馬と岐阜に半導体開発センターを開設し、アナログ半導体の技術の深化と製品ラインナップ拡大に向けた技術開発陣を強化いたしました。今後は、モータードライバICやロジック関連での相合を含めたアナログ半導体事業における8つの事業領域に注力し、「相合力」でオンリーワンを目指してまいります。



滋賀工場

## 社会的課題解決製品の開発と部品供給

ミツミ事業の精密部品事業は、コネクタ、スイッチ、コイルといった電子部品を製造、販売しています。金型の精度などが製品特性を大きく左右するため、ミネベアミツミが保有する超精密加工技術や大量生産技術とも親和性が高い事業となっています。小型、精密を得意とする当社の精密部品は、お客様に活用いただけるシーンがますます広がっています。

例えば自動車はさまざまな外部インフラ情報（GPS・Wi-Fi・TV等）と接続され、デジタル化された情報が、当社のFAKRAコネクタを通じて社内機器に伝送されます。それらの情報をもとに走行ルートやスピードが最適化されるため、

当社の高性能なコネクタを搭載することにより、無駄なガソリン消費を抑制し、環境負荷の低減につながることができます。

このように、精密な電子部品の供給を通してさまざまな社会的課題の解決に積極的に取り組み、SDGsの達成に努めてまいります。



FAKRA コネクタ